兵庫・鵤（いかるが）・城山（じょう）遺跡

1 所在地　兵庫県揖保郡太子町鵤字城山前

2 調査期間　一九八〇年（昭和55）一月一〇日～三月二〇日

3 発掘機関　太子町教育委員会

4 発掘担当者　三村修次

5 遺跡の種類　不明

6 遺跡の時代　縄文時代後期・弥生時代中期・古墳～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

鵤・城山遺跡は、斑鳩寺の北約六〇〇mの標高二七mの台地上に位置している。発掘調査は町道建設工事に伴い、東西五m、南北八〇mの建設予定地域に四m×四mのグリッドを設定して実施した。

検出された遺構は、縄文時代後期、弥生時代、古墳時代、平安時代及び、中世にわたっている。また検出された古代から中世の遺物としては須恵器・土師器・瓦質土器・瓦・青磁・白磁・陶器などの他に木製五輪卒塔婆がある。卒塔婆は、石組の井戸内、青褐色粘質土層より三つ折れになって検出した。井戸は廃絶時に二〇～三〇cm大の角・円礫で覆って埋められていた。掘形のプランは円形で、径三・三mである。石組は、遺構面より約一m下で検出し、内径一・一mである。

（龍野）

8 木簡の釈文・内容

五輪卒塔婆は右側が折損しているため、表面の文字の解読は即断できない。裏面は、文明六年六月二十七日に、亡くなった親を供養する意味するものである。

9 関係文献

志田原重人「草戸千軒町遺跡出土の木製塔婆類」（『草戸千軒』三七、草戸千軒町遺跡調査研究所）　一九七八年

（三村修次）

・「□□□□□見□身者發菩提　□　□　圓阿□□佛四七□之□也」
　〔弥陀カ〕　〔日カ〕
・「□□□□□佛
　〔南無カ〕
文明六年六月廿七日孝子敬白」

680×10×5　061